

令和5年(2023年)プレス災害発生状況(確定)

三条労働基準監督署

1. 地区別

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
燕地区	70	53	63	11					11	61.1%
燕	55	32	45	7					7	38.9%
(吉田)	13	16	12	3					3	16.7%
(分水)	1	2	1						0	0.0%
弥彦	1	3	5	1					1	5.6%
三条地区	39	19	26	7					7	38.9%
三条	29	11	26	7					7	38.9%
(栄)	7	6	0						0	0.0%
(下田)	3	2	0						0	0.0%
加茂地区	4	5	8	0					0	0.0%
加茂	3	3	4						0	0.0%
田上	1	2	4						0	0.0%
見附地区	1	0	2	0					0	0.0%
合計	114	77	99	18					18	100.0%

2. 事業場規模別

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
1～9人	38	33	34	5					5	27.8%
10～29人	44	24	45	6					6	33.3%
30～49人	13	6	7	2					2	11.1%
50人以上	19	14	13	5					5	27.8%
合計	114	77	99	18					18	100.0%

3. プレス機械の種類等

種類	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
ポジティブクラッチ	44	26	25	5					5	27.8%
フリクションクラッチ	46	35	54	7					7	38.9%
液圧プレス	9	5	1	2					2	11.1%
プレスブレーキ	12	9	11	2					2	11.1%
その他のプレス	3	2	8	2					2	11.1%
合計	114	77	99	18					18	100.0%
起動方式										比率
両手操作	11	8	13	1					1	5.6%
片手操作	4	1	2						0	0.0%
足踏み操作	97	67	83	17					17	94.4%
その他	2	1	1						0	0.0%
合計	114	77	99	18					18	100.0%

4. 安全措置状況

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
安衛則第131条第1項措置	24	10	7	2					2	10.0%
安全囲い	13	6	4	2					2	10.0%
安全金型			0						0	0.0%
専用プレス			1						0	0.0%
自動プレス	5	1	2						0	0.0%
安全プレス	6	3	0						0	0.0%
安衛則第131条第2項措置	61	46	103	14	0	0	0	0	14	70.0%
ガード式	3	1	12	1					1	5.0%
両手操作式(FC)	2	2	21	2					2	10.0%
両手起動式(PC)	2	3	7						0	0.0%
光線式	34	35	52	9					9	45.0%
手引き式	4		1						0	0.0%
手払い式	11	3	5						0	0.0%
PSDI			0						0	0.0%
手工具	5	2	5	2					2	10.0%
安全措置なし	40	7	14	4					4	20.0%
合計	125	63	124	20	0	0	0	0	20	100.0%

注・1台に複数の安全装置がされている場合も含む。安全装置がしてあり、使用を怠った場合も「安全措置あり」に含む。

5. 作業の種類

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計
定常作業(抜き・切断・曲げ・絞り等)	89	63	85	16					16
非定常作業(金型取り外し等)	25	14	14	2					2

6. 災害発生原因

	20年～24年	25年～29年	30年～R4年	5年	6年	7年	8年	9年	合計	比率
不安全な状態	92	54	61	10					10	50.0%
安全装置なし	16	14	15	4					4	20.0%
プレス機械の故障等	1	3	1	1					1	5.0%
安全装置の故障	1	2	1						0	0.0%
安全装置の不備(調整不良)	25	18	17	3					3	15.0%
作業方法の欠陥	41	13	25	1					1	5.0%
その他	8	4	2	1					1	5.0%
不安全な行動	90	47	64	10					10	50.0%
安全装置を無効にする	41	24	35	10					10	50.0%
安全措置の不履行	19	12	19						0	0.0%
その他(金型の取付・取外・調整を含む)	30	11	10						0	0.0%
合計	182	101	125	20					20	100.0%

(注) 不安全な状態と行動は両方該当する場合も記入してある。(災害発生件数と一致しない。)

(注) ○印の数字は死亡者数を表す。

【プレス災害発生状況】(プレスの種類で、FCプレスは、フリクションクラッチプレス、PCはポジティブクラッチプレスと種類を略称している。)

- R5.1 プレスブレーキにて、曲げ加工中、材料の位置固定のために添えていた右手が挟まり負傷した。安全装置は設けていなかった。
プレスブレーキにて、かしめ加工中、材料を供給した際にフットペダルを踏み、右手が挟まり負傷した。安全装置は設けていなかった。
- R5.2 PCプレスにて、つぶし加工中、治具に添えていた左手が挟まり負傷した。安全装置は設けておらず、手工具による措置としていた。
- R5.4 サーボプレスを使って、抜き作業中、製品の位置固定のために添えていた右手が挟まり負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
FCプレスにて、絞り加工中、材料を供給した際にフットスイッチを踏み、右手を負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
FCプレスにて、抜き作業中、材料を供給した際にフットスイッチを踏み、右手を負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
PCプレスにて、曲げ加工中、製品の入れ替えをしていた際に誤ってフットペダルを踏み、左手が挟まり負傷した。安全装置は設けていなかった。
- R5.5 FCプレスにて、抜き作業中、製品の入れ替えをしていた際に誤ってフットペダルを踏み、右手が挟まり負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
液圧プレスにて、絞り作業中、製品が下型にはまってしまい取り外そうとしていた際に、下部金型が上昇し右手が挟まり負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
FCプレスにて、抜き作業中、金属片が下の金型に残ってしまった。金属片を取り除くため、光線式安全装置の範囲の下から手を入れた際に誤ってフットペダルを踏んでしまい、左手を負傷した。
- R5.6 サーボプレスにて、曲げ加工中、材料の位置を直した際にフットスイッチを踏み、右手を負傷した。光線式安全装置を取り外して作業を行っていた。
- R5.7 PCプレスにて、抜き作業中、材料の位置固定のために添えていた左手が挟まり負傷した。ガード式安全装置を取り付けていたが取り外していた。
PCプレスにて、曲げ作業中、製品が下型にはまってしまい取り外そうとしていた際に、誤ってフットペダルを踏み、右手が挟まり負傷した。ガード式安全装置を取り付けていたが取り外していた。
FCプレスにて、孔あけ作業中、材料の入れ替えをしていた際にフットスイッチを踏んでしまい左手を負傷した。光線式安全装置が備えつけられていたが、その下方から左手を入れていた。
- R5.8 PCプレスにて、試し打ち終了後に製品を取り外そうとしたところ、単動設定だったにもかかわらず二度落ちが起こり、右手を負傷した。
- R5.11 FCプレスにて、絞り作業中、材料の入れ替えをしていた際にフットスイッチを踏んでしまい、右手が挟まり負傷した。光線式安全装置が備えられていたが無効にしていた。
FCプレスにて、孔あけ作業中、材料を供給した際にフットスイッチを踏んでしまい、右手が挟まり負傷した。光線式安全装置が備えつけられていたが、その下方から右手を入れていた。
油圧プレスにて、上型と下型を調整していた際に誤ってフットペダルを踏んでしまい、左手を負傷した。金型交換の特別教育を未受講の者が作業に従事していた。